

12節連続優出中の松村敏 イン押し切って桐生初V!



桐生

7/25~30 第21回スカットさわやか杯

1	①	松村 敏 (40)	福岡	①	15	131214141
2	②	古澤 光紀 (36)	福岡	②	12	121341361
3	⑤	重木 輝彦 (36)	兵庫	⑤	16	432151512
4	④	大池 佑来 (37)	東京	④	11	133241422
5	⑥	浜崎 準也 (37)	岡山	⑥	20	246541112
6	③	都築 正治 (53)	愛知	③	20	44222361
①② 280円(1) ①②⑤ 1160円(4) 逃げ						

8/3~7 第58回東京中日スポーツ杯

1	①	小山 勉 (38)	埼玉	①	12	13212121
2	③	松尾 充 (35)	三重	⑤	14	34251311
3	⑤	川北 浩貴 (52)	滋賀	③	11	13323612
4	⑥	河野 主樹 (28)	大阪	⑥	06	111422
5	②	谷津 幸宏 (44)	埼玉	④	09	11261521
6	④	高橋 竜矢 (26)	広島	②	10	24221452
①③ 400円(1) ①③⑤ 1450円(2) 逃げ						

8/11~16 第58回報知新聞社杯 お盆レース

1	①	金子 賢志 (33)	群馬	①	12	11231161
2	④	土屋 智則 (39)	群馬	④	13	23111312
3	⑤	久田 敏之 (43)	群馬	⑤	12	22212322
4	⑥	金子 拓矢 (40)	群馬	⑥	11	32316122
5	②	柴田 光 (52)	群馬	②	14	16233111
6	③	金児 隆太 (36)	群馬	③	13	31262251
①④ 500円(2) ①④⑤ 1730円(5) 逃げ						

〔7月25日〕第21回スカットさわやか杯〕11節連続優出中で参戦した松村敏が、当地でも躍動した。初日ドリーム戦は2号艇で単騎ダッシュ戦を選択し、ゼロ台の飛び出しからまくり一撃と好発進。予選は計3勝をマークして2位となり、準優はしっかりと逃げ切って12節連続でベスト6入りを決めた。予選1位の秋元哲が準優で3着。優勝戦1号艇に取まった松村は最後までイン逃げを決め、2月の若松、5月の福岡に次いで今年3回目、通算45回目、桐生では初めてのVをつかんだ。

〔8月3日〕第58回東京中日スポーツ杯〕小山勉が3年5か月ぶり8回目、桐生では初Vを果たした。出遅れしで休み明けの当節だったが、回り足の良さを生かした巧さばきが光り、予選トップで準優1着。優勝戦は高橋竜矢のピット離れが鋭く、これに川北浩貴も続いたが、進入は折り合いが良かった5対1。助

走距離を確保できたイン小山は、すんなりと逃げて勝利した。〔8月11日〕第58回報知新聞社杯お盆レース〕江口晃生が他場杯に回り、毒島誠は途中帰郷という状況の中、A2級の金子賢志がシリーズリーダーとなった。予選はまくり3本、逃げ1本の最多4勝を挙げる活躍で1位。準優も難なく逃げ、ファイナルの1号艇を手にした。優勝戦の進入は3対3で、イン金子賢は1Mを先制。プイ際を差した土屋智則にバックで追え込んで逃げ切った。22年7月のびわこ以来で通算11回目、桐生5回目のVを決めた金子賢は、表彰式で「すごくホッとしています。スタートはいいのが行けた。ターンマークをもらって、やっちゃったかなと思います。このリズムで次も優勝して、A1級に戻れるように」とはじける笑顔を見せた。

(スポーツ報知・佐々木伸)

戸田



埼玉レディースが躍動! 最後は清楚翔子が豪快まくり!

7月20日からは「ヴァイナスシリーズ第9戦」。格上の存在となる浜田亜理沙を中心に、地元勢が存在感を放った。このシリーズに参戦した5選手全てが準優勝戦に進出し、4選手が優出。優勝戦の1号艇は前田紗希が手に入れた。レースはイン先マイに出る前田に対し、3コースから全速勝負に出た清楚翔子のまくりが決まり、1着ゴール。中堅級の動きだったが、持ち味の攻撃力を生かして嬉しい地元水面初Vを達成した。

8月3日からは6日間開催の「BOATBOY CUP」。このシリーズから新機、新艇に切り替わった。例年は真夏の時期ということもあり、インが苦戦する傾向が続いていたが、意外にもインが利く流れとなり、節間を通してのイン勝率は当地平均以上の50%を超えた。ダッシュからグイグイ伸びるとい選手が思いのほか少なかった印象だった。優勝したのは吉田拓郎。

7月20日からは「ヴァイナスシリーズ第9戦」。格上の存在となる浜田亜理沙を中心に、地元勢が存在感を放った。このシリーズに参戦した5選手全てが準優勝戦に進出し、4選手が優出。優勝戦の1号艇は前田紗希が手に入れた。レースはイン先マイに出る前田に対し、3コースから全速勝負に出た清楚翔子のまくりが決まり、1着ゴール。中堅級の動きだったが、持ち味の攻撃力を生かして嬉しい地元水面初Vを達成した。

直線系を仕上げ、最後はイン逃げを決めてV。今年2度目、通算56回目の優勝となった。11日からはお盆シリーズ「第47回戸田ボート大賞・サンケイスポーツ杯」。今年はオール埼玉支部でのレースとなった。エース桐生順平が断然のV候補だったが、4日目12RでまさかのF脱落。一気に混戦模様となり、準優勝でも予選トップ通過だった飛田江己が敗退。台風の影響もあり、1日順延となったシリーズを制したのは島田賢人だった。優勝戦は4号艇。伸び一本の調整で「まくります」と意欲満々だったが、有限実行のまくりで今年3度目のVを飾った。またシリーズを盛り上げたひとりが楠将太郎。準優勝戦はエンスト失格となってしまったが、攻めのハンドルで4勝をマーク。新期の勝率はまだ4点台だが、着実に成長している姿を見せているだけに今後にも注目だ。

(ガイド・長谷川)

7/20~25 ヴァイナスシリーズ第9戦・東京中日スポーツ杯

1	③	清楚 翔子 (32)	埼玉	③	14	521532341
2	④	浜田亜理沙 (36)	埼玉	④	13	131112222
3	②	實森 美祐 (27)	広島	②	16	311252431
4	⑤	高石 梨菜 (30)	東京	⑤	19	313134252
5	⑥	中田 夕貴 (31)	埼玉	⑥	19	165221162
6	①	前田 紗希 (31)	埼玉	①	12	114114341
③④ 2630円(11) ③④② 8970円(37) まくり						

8/3~8 BOATBOY CUP

1	①	吉田 拓郎 (42)	岡山	①	11	212131121
2	②	竹田 和哉 (30)	香川	②	10	161411121
3	③	太田 和美 (51)	大阪	③	11	224122111
4	⑤	岡村 慶太 (36)	福岡	⑤	17	642311142
5	④	竹井 貴史 (33)	福岡	④	16	532122142
6	⑥	野間 大樹 (35)	大阪	⑥	18	511251412
①② 390円(2) ①②③ 1060円(3) 逃げ						

8/11~17 第47回戸田ボート大賞・サンケイスポーツ杯

1	④	島田 賢人 (36)	埼玉	④	16	1112332
2	⑤	秋元 哲 (35)	埼玉	⑤	17	4412132
3	③	黒井 達矢 (36)	埼玉	③	18	2654111
4	⑥	松本 純平 (29)	埼玉	⑥	23	6135212
5	②	中澤 和志 (48)	埼玉	②	21	11334211
6	①	石塚 久也 (42)	埼玉	①	22	2232111
④⑤ 2370円(9) ④⑤③ 13390円(48) まくり						

江戸川



江戸川巧者をなぎ倒した! 松田大志郎が4カド強攻!



松田大志郎

7/30~8/4 第33回アサヒビールカップ

1	④	松田大志郎 (36)	福岡	④	08	1525122
2	⑤	一瀬 明 (53)	東京	⑤	16	25223313
3	①	岡村 仁 (40)	大阪	①	13	16113121
4	②	石渡 鉄兵 (49)	東京	②	12	41113141
5	⑥	金田 智博 (26)	福井	⑥	18	3131443
6	③	三嵩 誠司 (56)	香川	③	14	24312312
④⑤ 3340円(11) ④⑤① 9620円(32) まくり						

8/14~20 第46回大江戸賞

1	①	石渡 鉄兵 (49)	東京	①	05	1221221
2	④	前沢 丈史 (38)	東京	④	14	2321442
3	②	渡邊 雄朗 (38)	東京	②	10	2112531
4	⑥	中野 次郎 (43)	東京	⑥	18	34311624
5	③	福来 剛 (43)	東京	③	08	2433112
6	⑤	久永 祥平 (29)	東京	⑤	16	2223433
①④ 500円(3) ①④② 1520円(6) 逃げ						

7月30日頃の「第33回アサヒビールカップ」は、4枠の松田大志郎が1枠の岡村仁、2枠でエース機を駆る石渡鉄兵らをまとめてまくり一撃で撃破。追い風7M、上げ潮50cmとまくり屋には厳しい水面状況の中での豪快な攻め切り一発。波風巧者で当地も大得意とする松田がまさに面目躍如のV劇だった。「スタートはフルシヨットで、少し欲張ってしまいました。エンジンが5日目の調整がはまってくれましたね。今回はドリフトもかからも漏れてしまったけれど、最後にあの3人(岡村、石渡鉄、三嵩誠司の当地巧者)を倒したので、自分が江戸川・大志郎でもういいでしょう(笑)。ここを走るとゲンがいいのか、その後がリズムよく上がっていくんですよ。今回も、これをきっかけにリズムを上げていきたいですね」と優勝後に話している。当地戦は3度目の優勝だった。

お盆シリーズ「大江戸賞」。当節は前節のアサヒビールカップからの連闘となった石渡鉄兵の強さが光った。8戦3勝のオール2連対でV戦1枠に乗り込むと、最後までコマ05の快スタートで難なく逃げ切って大江戸賞3度目の優勝。当地は23度目の優勝と本家「江戸川・鉄兵」がらしさを見せつけた。優勝後は「(エンジンの仕上がりは)ぼつちりでした。それに今回はエンジンも良かったけど、(調整で)新しい発見もありましたしね。(シリーズを100点満点で評価したら?) 優勝も出来たし100点の出来だったのかな」とシリーズを笑顔で振り返った。石渡はこれで6月の蒲郡周年に続く今年2度目のV。賞金ランクもこの優勝時点で22位まで浮上した。今年後半戦へ向けては「特に力むこともないし、淡々とやっていきたいですね」と、いつもの物静かな口調で語っている。(野添)

ダービーで初SGの永田啓二 勢い乗って今年4度目V



7/23~26 BIGFUN平和島杯

1	⑤	安河内 健 (28)	佐賀	⑥	12	121213
2	①	中村 有裕 (44)	滋賀	①	12	32112
3	②	清水 敦揮 (43)	岡山	②	19	232132
4	⑥	藤生 雄人 (49)	群馬	④	26	213423
5	④	仲道 大輔 (24)	愛知	⑤	15	144113
6	③	入澤 友治 (45)	東京	③	21	11521
⑤① 1420円(7) ⑤①② 4220円(16) まくり差し						

8/7~10 第38回東京スポーツ賞

1	①	永田 啓二 (39)	福岡	①	03	321211
2	③	上平 真二 (50)	広島	③	03	331213
3	⑤	中辻 博訓 (42)	福井	⑤	05	11145
4	④	富永 修一 (49)	福岡	④	07	13321
5	②	下出 卓矢 (37)	福井	②	06	111133
6	⑥	木田峰由季 (33)	福井	⑥	08	13242
①③ 340円(1) ①③⑤ 1120円(3) 抜き						

8/16~22 第64回デイルスポーツサマーカップ

1	①	若林 将 (40)	東京	①	09	125411241
2	②	作間 章 (45)	東京	②	10	234253161
3	⑤	齊藤 仁 (47)	東京	⑤	13	314131332
4	③	深水慎一郎 (44)	東京	③	08	13255141
5	④	田中 豪 (51)	東京	④	12	13223132
6	⑥	山田 亮太 (45)	東京	⑥	13	421644132
①② 310円(1) ①②⑤ 1110円(2) 逃げ						

「BIGFUN平和島杯」では前検日に東海道新幹線の運転見合わせがあり、規定の集合時間に間に合わなかった7選手を除く36選手によって前検日の作業が行われ、その後、遅れて到着した中村有裕、香川陽太が17時近くになって前検作業を行う変則的な時間割に。前検日に現地入りできなかった5選手については、賞典レースへの権利を持ったまま2日目から参戦するという措置が講じられた。到着こそ遅れた中村だったが仕上げは逆に早く進み、レース足は上位級に。予選トップ通過にも成功。久々となる復活Vへ王手をかけたが、優勝戦では仲道大輔がチルト3解禁、マーク策を選択した安河内健は仲道の仕掛けに乗、まくり差して切り込んで中村を退け、平和島初優勝、初Vを達成した。

続く「東京スポーツ賞」では初日に下出卓矢、中辻博訓、小西英輝が連勝、木田峰由季も1回乗りを白星で飾り、当日は福井支部所属の全員が一人として2着以下になることなく全勝するという、珍事が発生。この中からは下出、中辻、木田が優出にも成功。予選道中ではチルト2も駆使して活躍した下出ではあったが、最後は2枠。強伸びを發揮する場を失い、その差しを抑えイン先制を果たした永田啓二が年間4度目のVを達成。

お盆開催の「第64回デイルスポーツサマーカップ」は台風7号接近の影響によって初日が中止順延、開幕が一日遅れた。この時は序盤にベテラン勢が活躍して日替わりヒーロー状態に突入したが、最終的には若林将や作間章、齊藤仁ら銘柄級がきっちり優出。優勝戦が行われた頃は潮位が高く追い風も強め。まくり屋の出番はなく、若林がインから押し切り、こちらも年間4回目のVゴールを決めた。(ガイド・長船)

絶好枠が転がり込んだ庄司樹良々 通算5度目で地元初V!



多摩川



庄司樹良々

7/26~31 第30回tvkカップ

1	③	中嶋健一郎 (35)	三重	③	07	511312611
2	④	谷野 隼志 (39)	静岡	④	05	511122422
3	②	作間 章 (45)	東京	②	15	232221221
4	⑥	飯山 泰 (46)	東京	⑥	09	533221212
5	⑤	深尾 巴恵 (31)	群馬	⑤	01	33241152
6	①	麻生 慎介 (39)	広島	①	19	111122411
③④		3070円(9)	③④②	12110円(35)	まくり	

8/11~16 BTS大郷開設記念第26回大郷葉月杯

1	①	庄司樹良々 (33)	東京	①	13	13422131
2	②	梶野 学志 (43)	東京	②	16	212161411
3	④	佐藤隆太郎 (30)	東京	④	10	322331132
4	③	三角 哲男 (57)	東京	③	10	311423311
5	⑥	上原 峻 (29)	東京	⑥	11	15214132
6	⑤	佐藤 翼 (35)	埼玉	⑤	14	233115232
①②		490円(1)	①②④	1370円(1)	逃げ	

7月26日に開幕した「第30回tvkカップ」は6日間の男女混合戦によって争われた。開幕ダッシュを決めたのは麻生慎介だった。初日ドリーム戦を含む4連勝でシリーズを優位に運ぶ。仕上がりは日々一長一短の様子だったが、当地の相性の良さも生かして軽快にポイントを重ね、独走で予選を1位で通過した。

準優も快勝した麻生はポールポジションを獲得。しかし、優勝戦前にゲリラ豪雨が多摩川水面を襲い強烈な雨風のため発走時刻が延ばされた。結局、予定時刻が切り時刻の約15分後に発走となったが、麻生はコンマ19の立ち遅れ。07のタイミングでスタートを切った中嶋健一郎に抵抗することもできず敗れた。勝った中嶋は昨年7月の若松以来で今年初V。準優時に調整をバチッと合わせて最後までそれを出し切った。

お盆レース「BTS大郷開設記念第26回大郷葉月杯」は8月11日が初日。地元東京支部の他にも江口晃生や佐藤翼ら近県からも実力派が集結し、白熱した6日間バトルとなった。シリーズは日々上位の顔ぶれが変わる混戦ムードの中、杉山貴博が1位。ほか、佐藤隆太郎と庄司樹良々が準優の1枠を手にした。その準優は杉山が江口の前付けによってスタートを遅れてしまい敗戦、さらに佐藤隆も梶野学志に差されて庄司に優勝戦1枠が巡ってきた。

優勝戦当日は台風接近にともない前日の段階では開催も危ぶまれたが、さほど影響もなく通常通り行われた。節イチ級の動きを見せていた庄司は1Mでツケマイを狙ってきた三角哲男の攻めを封じて圧勝。昨年12月の桐生以来通算5回目、地元東京のレース場では初優勝を飾った。(トーチユウ・白川)

涙君湖



5カド選択の中岡正彦 フルショットでMリーグ初V

「GⅢマスターズリーグ第4戦 サッポロビールカップ」V争いを引く張ったのは地元の重野哲之だった。開幕3連勝の貯金もあり、予選をトップ通過。準優では6枠西島義則をインに入れてジカまくり。16年11月以来となる地元Vへ王手をかけた。迎えた優勝戦本番は6枠吉川昭男が4コースへ動いて1236

「シーラック バリ勝男クン。カップ」予選トップ通過を決めたのは、1節前にVの62号機を手にした谷川祐一。とにかく出てるのなんの。「スリットから大体の人が消えていきますから」と評するほどだった。機力で双壁と目された12号機の杉江浩明が3日目2Rでフライングを切ったこともあり、ますますVへの機運が高まった。優勝戦はピット離れの良かった4枠石川真二を制してインを死守。石川の2コース差しが入りかけたものの、抜群パワーで振り切った。今年初優勝を飾った。

7/26~29 シーラックバリ勝男クン。カップ

1	①	谷川 祐一 (42)	滋賀	①	10	2311113
2	④	石川 真二 (54)	福岡	②	14	5412111
3	②	桑原 悠 (37)	長崎	③	14	152121
4	③	橋本 年光 (49)	兵庫	④	16	31322
5	⑥	樋口 亮 (48)	長崎	⑥	24	34211
6	⑤	山田 哲也 (41)	東京	⑤	12	512141
①④		520円(2)	①④②	1390円(3)	逃げ	

8/1~6 マスターズリーグ第4戦 サッポロビールカップ

1	④	中岡 正彦 (46)	香川	⑤	15	136141112
2	⑤	出畑 孝典 (45)	福岡	⑥	25	155131312
3	⑥	吉川 昭男 (51)	滋賀	④	25	261251222
4	①	重野 哲之 (45)	静岡	①	19	111232341
5	③	石田 章夫 (48)	静岡	③	23	114223231
6	②	大庭 元明 (54)	福岡	②	27	323312151
④⑤		1630円(7)	④⑤⑥	10420円(35)	まくり	

8/10~15 中日スポーツ後援 湖西市長杯争奪戦 黒潮杯

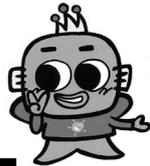
1	⑥	谷野 隼志 (39)	静岡	⑤	12	612334412
2	①	服部 幸男 (53)	静岡	①	17	224111131
3	②	笠原 亮 (44)	静岡	②	19	131222121
4	④	菊地 孝平 (45)	静岡	④	15	314232262
5	③	伊藤 将吉 (45)	静岡	③	17	224113351
6	⑤	山田 雄太 (42)	静岡	⑥	18	411143412
⑥①		9930円(20)	⑥①②	44160円(73)	抜き	

カド45の進入。5カドに引いた中岡正彦が会心のフルダッシュでスロー勢を一蹴してマスターズリーグ初優勝。重野は中へこみのスリット隊形が災いして4着に敗れた。

「中日スポーツ後援 湖西市長杯争奪戦 黒潮杯」菊地孝平や深谷知博が平凡機に手を焼く一方で、服部幸男の12号機は前検から納得の動き。序盤の伸び寄りから回り足の手応えも深まり文句なしの節一パワー。ファイナル1枠をゲットした。17年の正月戦以来となるオール静岡Vへ一目散に逃げるだけと思われたが、優勝戦はイン先マイも、バックは差した笠原亮と並走に。2Mは内から先に回った笠原に対して、服部は外マイ。しかし3番手に付けていた谷野隼志がまんまと間隙をとらえて先頭に浮上して待望のオール静岡初優勝。「まさか6枠で勝つとは」と感激しきりだった。

(MOCHI)

蒲郡



さすがは地元のエース 池田浩二が貫録V



8/10~15 第3回愛知・名古屋アジア・アジアパラ大会協賛競走

1	①	池田 浩二 (46)	愛知	①	11	1112121221
2	④	吉田 裕平 (27)	愛知	④	17	3311312122
3	③	池田 雄祐 (36)	愛知	③	16	41533121
4	②	前田 聖文 (36)	愛知	②	12	211321421
5	⑤	河村 了 (40)	愛知	⑤	22	4411312222
6	⑥	上田 健太 (28)	愛知	⑥	25	222254532
		①④	290円(2)	①④③	1000円(5)	逃げ

8月10日からのお盆開催は、モーター、ボート、プロペラが一斉に更新されて2節目。調整を手の内に入れていた地元レーサーが乗ると本体の素性が明らかになりやすい長所がある。レース名については、毎年恒例の「納涼しぶきお盆特別選抜戦」ではなく、今年は第3回愛知・名古屋アジア・アジアパラ大会協賛競走」として争われた。8月14日には、大村秀章愛知県知事と河村たかし名古屋市長が鈴木寿明蒲郡市長らとレースを観戦。大会をアピールした。盛り上がりがあったのは場内だけでなく、水面も大いに熱を帯びていた。SGタイトルホルダーの池田浩二、磯部誠が華麗な走りでも魅了。また、今シリーズは兄弟レーサーの参戦が3組もあり、吉田凌太郎&裕平、前田篤哉&翔、丹下健&将の参戦が話題を集めた。

レースの方は、新エンジン2節目の特徴として、一度使われたモーターと全くの新モーターでは仕上がりのスピードに差が生じていた。新機の杉山裕也は序盤の4走で2連対に絡むことが出来なかったが、3日目からはパワフルな走りで4連勝。4日目12Rは得点率とはノーカウントの一戦だったが、池田浩二のイン戦に土を付けたぐらいだ。他にも優出5着の河村了や選抜1着の野口勝弘は、新エンジンのハンデを乗り越えてしっかりと引き出していた。シリーズは池田浩二が予選を7戦5勝オール2連対で牽引。盤石のVロードを歩んでいるかのように見えたが、実際は3走目にコンマ00のタッチスタートで肝を冷やし、そこからは我慢(優勝戦までゼロ台を封印)のレースで勝ち抜いた。

2節目に動きが際立っていたのは、64号機の前田聖文、63号機の池田雄祐がパワー面でトップを形成していた。(スポーツ報知・太田和良)

女王の貫録たっぷり 遠藤エミが堂々押し切った！



とこなめ

7/27~30 スポーツ報知中部発刊45周年記念競走

1	①	吉田 裕平 (27)	愛知	①	10	111111
2	②	渡辺 浩司 (40)	福岡	②	08	122231
3	③	井上 一輝 (30)	大阪	③	12	231151
4	⑤	古川 健 (40)	広島	⑤	16	414332
5	⑥	馬場 剛 (32)	東京	⑥	13	163242
6	④	前沢 丈史 (38)	東京	④	16	123422
		①②	230円(1)	①②③	480円(1)	逃げ

8/10~15 名鉄杯争奪2024納涼お盆レース

1	⑥	北川 潤二 (42)	愛知	②	12	32234422
2	②	中山 雄太 (40)	愛知	③	09	131321251
3	⑤	黒野 元基 (28)	愛知	⑥	13	623512132
4	④	前田 滉 (24)	愛知	④	12	215131612
5	③	杉山 正樹 (44)	愛知	⑤	12	2151264421
F	①	鈴木 勝博 (41)	愛知	①	+03	222121261
		⑥②	5180円(17)	⑥②⑤	23580円(54)	恵まれ

8/18~21 誠進社杯

1	①	遠藤 エミ (36)	滋賀	①	16	213221
2	⑥	大場 恒季 (24)	愛知	⑤	18	15152
3	⑤	高倉 孝太 (37)	福岡	②	21	22132
4	③	植田 太一 (35)	福岡	③	21	21331
5	②	藤原 菜希 (38)	東京	②	15	331311
6	④	原田 篤志 (44)	山口	④	24	321512
		①⑥	2070円(6)	①⑥⑤	12590円(28)	逃げ

7月30日のスポーツ報知中部発刊45周年記念競走。地元の名手吉田裕平が予選・準優と無傷の6連勝で勝ち上がった。機力も上位なら走りにも隙がない。自身初のパーフェクトVへ態勢は万全だった。優勝戦は進入に動きはなく枠なり3対3。人気を一身に集めた吉田は、インからコンマ10の好Sを決めた。2コースの渡辺浩司がコンマ08のトップSだったが、吉田は渡辺を壁にしてイン速攻で押し切った。渡辺が差しに構え、井上一輝が握っていく。BSで吉田は早くも独走状態。渡辺は2マーク井上をけん制して回って2着確保。井上が3着入線。

8月15日の名鉄杯争奪2024納涼お盆レース。快速機をパトナーに鈴木勝博・中山雄太の師弟コンビが優勝戦の1・2枠を固めた。鈴木は出足型、中山は伸び型で節1、2を争うパワー。それに待ったをかけるべく、6号艇の北川潤二が前付け

にいく。鈴木はイン死守したが、伸びる中山はVチャンスの大きい3コースへ出た。前田滉もスローを選択し、伸び仕様の杉山正樹は5カドへ。人気の鈴木がS決めて逃げたかに見えるが、すぐにFコール。伸びてまくりに出た中山は鈴木木の抵抗を受け、その隙にクルリと回った北川が繰り上がりのV。

21日の誠進社杯。前節の中山雄太が乗った36号機を引き当てる遠藤エミが予選トップ通過、準優1着でファイナル1号艇。序盤こそ調整に迷いもあったが、最終的には自信の仕上がりで逃げ切り、とこなめ初優勝を飾った。しかし、簡単なレースではなかった。大場恒季が内へ色気を見せ、チルト1・5に跳ねた高倉孝太が単騎カマシで伸ばしてきた。遠藤はその高倉を受け止め、力強いイン逃げを決めたのだった。

(とこなめ情報 土井)

大激戦の地元バトル 松井洪弥がお盆戦初V



津

7/26~31 津オールレディースマクール杯

1 ② 宇野 弥生 (38) 愛知	2 16 114211531
2 ⑤ 深川 麻奈美 (37) 福岡	5 15 216263312
3 ⑥ 川野 芽唯 (38) 福岡	6 19 234132123
4 ③ 三浦 永理 (41) 静岡	3 79 3135322112
5 ① 高田ひかる (29) 三重	1 22 223211131
6 ④ 日高 逸子 (62) 福岡	4 18 342234232
②⑤ 5850円(16)	②⑤⑥ 34320円(67) 差し

8/4~9 につぼん未来プロジェクト競走in津

1 ① 今垣光太郎 (54) 福井	1 21 142151111
2 ② 山崎 哲司 (45) 愛知	4 16 54111221
3 ⑤ 馬場 剛 (32) 東京	6 13 211422132
4 ③ 溝口海義也 (29) 福岡	5 16 331222451
5 ⑥ 湯川 浩司 (44) 大阪	23 251441412
6 ④ 海野康志郎 (36) 山口	27 121321212
①② 420円(1)	①②⑤ 2860円(17) 抜き

8/13~18 中京スポーツ納涼しぶき杯争奪戦

1 ① 松井 洪弥 (31) 三重	1 14 112431231
2 ② 坂口 周 (46) 三重	2 14 122214221
3 ③ 豊田健士郎 (28) 三重	3 19 512224111
4 ⑤ 高田ひかる (30) 三重	5 27 412531232
5 ④ 平田健之佑 (37) 三重	4 25 234113212
6 ⑥ 東本 勝利 (44) 三重	6 26 233251312
①② 290円(2)	①②③ 620円(1) 逃げ

GⅢ「オールレディースマクール杯」は7月26日に初日を迎えた。技量差の大きい女子戦だけに、主力陣は低調機が多かったが優勝戦は順当な顔触れとなった。予選ラストでトップ通過を手に入れたのは高田ひかるだった。まくり姫の看板は下ろし、回り足を重視した戦い方で予選を引っ張った。優勝戦も1号艇で人気となったが、展示で一艇身以上のF。これが本番に影響を及ぼしたか。隣2コースの宇野弥生の強烈なプレッシャーを受ける形で1Mを迎えてしまい、先に回ることで精一杯になり大きく飛んでしまった。宇野がじっくりと見て差し切り、2月戸田に続く今年2Vへ。

8月4日から開催された「につぼん未来プロジェクト競走in津」はSG・記念クラスが大挙参戦しての大激戦。予選3位通過ながらも、優勝戦1号艇へたどり着いたのは今垣光太郎。終盤は4連勝として勢い最高潮で迎えた優勝戦だったが、二転三転の争いとなった。湯川浩司が回り込み、この動きに海野康志郎も先手を打った。競り合うスロー水域を山崎哲司がまくり差し、さらに内を馬場剛も差し伸びた。2M先マイは馬場だが、ここを鋭く差しさばいたのが今垣。ホームぎりぎり内を粘り、2周1Mで突き放しに成功。今年7月下旬に続く2Vを飾った。

13日からはお盆レース「中京スポーツ納涼しぶき杯争奪戦」が行われた。井口佳典、新田雄史がどちらも準優勝となる大混戦となったが、予選1位を激しく争った松井洪弥、坂口周が優勝戦でもバトル。イン先マイを決めた松井にバック坂口が差し追ったが、松井が厳しく締め込み振り切った。松井は通算6回目となる優勝。今年3月に待望の地元初Vを飾ったが早くも2回目の快音を放った。

(中日スポーツ・高橋)



止まらない中辻崇人 差して今年7度目のV

「近畿・関東・九州支部集結！モーニングバトル」では初日の三国選抜を勝った古結宏と2着だった中辻崇人は、共に準優1枠を手にして勝利。それを上回る活躍を見せたのは予選で3勝を含むオール3連対の山下大輝。準優も逃げて、優勝戦の1号艇を獲得した。以下は枠番順に中辻、古結、篠原飛翔、上村純一、大澤晋司が名を連ねた。迎えた優勝戦。展示は、進入がなんと1対5、2コースの中辻がカドを選択したが、本番は枠なり3対3。1周1マークでターインが膨らんだ山下を差した中辻が、1周2マークで先マイしてそのままゴール。今年7度目の優勝を飾った。2着は山下、3着は篠原と初優勝を狙った2人が続いた。

「夏盛り!! 三国観光産業社長杯」は井口佳典、山崎郡、大峯豊が準優1枠を手にしたが、3選手とも2着に敗れる波乱。初日のシリーズ選抜を制し、準優

(実況アナウンサー・高橋敬亮)

は差して勝った齊藤仁が優勝戦1号艇を手にした。同じく差した池永太、まくり差して1着の井上一輝が2号艇、3号艇で優出を決めた。注目の優勝戦。3コースからまくった井上が圧勝。2着に山崎が入り大阪支部のワンツ。3着は池永で、3連単は高配当での決着だった。

お盆開催「第52回しぶき賞」。前回大会は、29年振りに遠征勢の優勝で、地元勢奮起が期待されたが、予選トップは三重支部の吉川貴仁。しかし準優では、地元の前出達吉にまくり差しを許し2着。得点率2位の武田光史と3位の松田祐季が順当に勝ったため、1号艇から順に武田・松田・前出・吉川・中島孝平・中辻博訓の6選手が優出。迎えた優勝戦は、武田がインから他艇を寄せ付けず圧勝。地元水面は2年振りとなる嬉しいVで、表彰式ではファンの声援に笑顔で応えていた。

7/29~8/2 近畿・関東・九州支部集結！モーニングバトル

1 ② 中辻 崇人 (47) 福岡	2 14 12421131
2 ① 山下 大輝 (27) 兵庫	1 15 2131161
3 ④ 篠原 飛翔 (25) 福岡	4 29 531122
4 ⑤ 上村 純一 (44) 群馬	5 17 1236312
5 ③ 古結 宏 (46) 兵庫	3 14 31312421
6 ⑥ 大澤 晋司 (50) 群馬	6 17 1325412
②① 660円(4)	②①④ 2700円(10) 差し

8/6~9 夏盛り!! 三国観光産業社長杯

1 ③ 井上 一輝 (30) 大阪	3 17 631221
2 ⑤ 山崎 郡 (34) 大阪	5 11 151312
3 ② 池永 太 (39) 福岡	2 18 241541
4 ① 齊藤 仁 (47) 東京	1 14 214441
5 ④ 井口 佳典 (46) 三重	4 14 133232
6 ⑥ 大峯 豊 (40) 山口	6 11 161352
③⑤ 5060円(13)	③⑤② 28180円(59) まくり

8/16~21 第52回しぶき賞

1 ① 武田 光史 (50) 福井	1 13 221411351
2 ② 松田 祐季 (38) 福井	2 14 163221231
3 ⑤ 中島 孝平 (44) 福井	5 11 21213541落2
4 ④ 吉川 貴仁 (31) 三重	4 17 42121252
5 ③ 前出 達吉 (34) 福井	3 11 41315131
6 ⑥ 中辻 博訓 (49) 福井	6 13 151351332
①② 280円(1)	①②⑤ 990円(2) 逃げ

びわこ



強カパワーを味方に 是澤孝宏がお盆シリーズを制す!

7月28日は「さざなみ賞」の最終日。ハイパワーを武器に予選を首位通過の加倉侑征が準優を押し切って念願初Vに王手をかけた。ただ西島義則の前付けがあるだけに、直前に中間整備が入った33号艇を手に快パワーを誇る東口晃はもちろん、高橋竜矢、山崎郡、竹田和哉にもチャンスは十分だ。迎えた優勝戦は西島がインを取る勢いで前付けに動き、抵抗した加倉は8メートルを超える深い起こし位置。内両者に加えて東口も後手に回るスリット隊形となり、4カドからスロー勢を飲み込んだ高橋が先行態勢へ。高橋は通算4回目、当地では2回目のV。

「西日本スポーツ杯」の最終日は8月6日。準優はすべて1号艇が1着で予選首位の久田敏之がファイナルの1号艇に構える。依然として上位との機力差を口にするが、最後は気合のSで押し切るのみだ。ただ土屋智則をはじめ山田康二、向後龍一

7月28日は「さざなみ賞」の最終日。ハイパワーを武器に予選を首位通過の加倉侑征が準優を押し切って念願初Vに王手をかけた。ただ西島義則の前付けがあるだけに、直前に中間整備が入った33号艇を手に快パワーを誇る東口晃はもちろん、高橋竜矢、山崎郡、竹田和哉にもチャンスは十分だ。迎えた優勝戦は西島がインを取る勢いで前付けに動き、抵抗した加倉は8メートルを超える深い起こし位置。内両者に加えて東口も後手に回るスリット隊形となり、4カドからスロー勢を飲み込んだ高橋が先行態勢へ。高橋は通算4回目、当地では2回目のV。

8月16日は「びわこカップ」のファイナル。予選トップの是澤孝宏が準優を逃げ切り、最多の6勝を挙げて待望の今年初優勝を決めた。7月の中間整備で急変した33号艇を駆って強力な出足には大満足の表情だ。ただ吉川昭男もエース級機を手に機力はハイレベル。紅一点・西橋奈未や澤田尚也、守田俊介、川島圭司もV争いは十分に可能な足色だ。優勝戦は4カドから伸びる澤田を制して是澤がイン先マイ。激しい後続争いを尻目にVロードを駆け抜けた。是澤は通算13回目、地元びわこでは5回目のVを飾った。

(クラ)

7/24~28 サンケイスポーツ杯争奪 第46回さざなみ賞

1	③	高橋 竜矢 (26)	広島	④	16	3212211
2	④	山崎 郡 (34)	大阪	⑤	12	44113122
3	①	加倉 侑征 (27)	福岡	①	24	1122111
4	⑤	西島 義則 (62)	広島	②	23	33224132
5	⑥	竹田 和哉 (30)	香川	⑥	20	31141312
6	②	東口 晃 (40)	福井	③	30	2511161
		③④	1130円(3)	③④①	4760円(17)	まくり

8/1~6 第8回西日本スポーツ杯

1	①	久田 敏之 (43)	群馬	①	09	123141321
2	④	向後 龍一 (43)	埼玉	④	14	342112442
3	③	山田 康二 (36)	佐賀	③	14	1361421221
4	②	土屋 智則 (39)	群馬	②	14	4141213111
5	⑤	柳沢 一 (43)	愛知	⑤	16	1433513212
6	⑥	河合 佑樹 (37)	静岡	⑥	21	3514531112
		①④	1110円(4)	①④③	4040円(15)	逃げ

8/11~16 滋賀県知事杯争奪 第29回びわこカップ

1	①	是澤 孝宏 (39)	滋賀	①	10	111621151
2	③	西橋 奈未 (28)	福井	③	10	333411151
3	④	澤田 尚也 (25)	滋賀	④	09	213421262
4	⑥	川島 圭司 (41)	滋賀	⑥	20	112143532
5	②	吉川 昭男 (51)	滋賀	②	16	311161231
転	⑤	守田 俊介 (49)	滋賀	⑤	17	613131222
		①③	550円(2)	①③④	1790円(5)	逃げ

が好パワー。柳沢一、河合佑樹の外枠勢も侮れない存在だ。優勝戦は久田がインからコンマ09のトップSを決めるとそのまま先マイへ。全速戦に出た山田、差しを狙う土屋を寄せ付けずにBSに入った時点で先行態勢に持ち込んだ。久田は通算45回目、びわこでは初となるV。



佳之江

3カド策がピタリ 松井繁がオール大阪V26!



7/29~8/4 日刊スポーツ75周年記念第28回ブルースターカップ

1	①	島川 海輝 (21)	山口	①	04	1313122521
2	②	河村 了 (40)	愛知	②	09	2531213241
3	③	小坂 尚哉 (37)	兵庫	③	05	2142511631
4	⑤	杉山 貴博 (44)	東京	⑥	19	1263232412
5	⑥	和田 拓也 (34)	兵庫	⑤	03	5153441142
6	④	龜山 雅幸 (41)	群馬	④	04	1431432242
		①②	340円(1)	①②③	760円(1)	逃げ

8/13~18 大阪ダービー 第41回摂河泉競走

1	③	松井 繁 (54)	大阪	③	01	142233131
2	①	山崎 郡 (34)	大阪	①	04	531113131
3	⑥	湯川 浩司 (44)	大阪	⑥	07	45114222
4	②	木下 翔太 (33)	大阪	②	03	113331521
5	⑤	馬野 耀 (30)	大阪	⑤	01	232142442
F	④	上條 暢嵩 (30)	大阪	④	+01	211111262
		③①	950円(3)	③①⑥	4300円(14)	まくり差し

7月29日から8月4日までの7日間シリーズ「ブルースターカップ」が開幕。初日ドリウム戦は当地SG王者である平尾崇典が人気に添えて押し切った。しかし、予選道中で平尾は調整に大苦戦を強いられ、どうにか予選は通過したが準優敗退と本来の実力を示すことはできなかった。その中で予選をトップで通過したのは島川海輝。これが自身初となるシリーズリーダーとなったが、準優も冷静に逃げて優勝戦の1号艇を獲得。優勝戦でもプレッシャーがかかる中ではあったが、トップタイのスタートを決めて先マイするとバックでは一気に突き放して完勝。通算4回目の栄冠は自身初となる王道Vで締めくくった。

8月13日からは「摂河泉競走」が行われた。ダブルドリウム戦の初日は松井繁、2日目は上條暢嵩がともにイン逃げで人気に応えた。3日目以降も上條は白星を重ねて5連勝で予選トップ

通過を決め、山崎郡、木下翔太までが準優の1号艇を手にした。木下、山崎は危なげなく押し切り、準優はイン逃げ3連発で決着すると思われたが、最後に波乱が待っていた。先マイした上條のターンが流れると、この隙を見逃さなかった松井繁が差し切って白星を挙げた。上條は2着は死守したが、優勝戦の絶対枠は山崎に巡ってきた。迎えた優勝戦では早いスリット合戦となり、3カド策の松井繁がコンマ01のスタートから仕掛けるアクションをみせる。この動きに山崎は反応して先制するが、松井繁はまくり差しに切り替えて捉え1着を掴んだ。なお、同じく人気を集めた上條はコンマ+01のフライングに散った。松井繁は今年初、摂河泉競走は2018年以来となる4回目、オール大阪制覇は19年ラビートカップ以来となる26回目の栄冠に輝いた。

(安達弘持)

1	①	定松 勇樹 (23)	佐賀	1	06	1115313231
2	②	中村 日向 (25)	香川	2	08	1344213141
3	③	畑田 汰一 (25)	埼玉	3	05	143211431
4	⑤	宮田 龍馬 (26)	兵庫	5	05	1444212422
5	④	竹間 隆晟 (23)	大阪	4	22	153161212
6	⑥	大澤 風葵 (23)	群馬	6	04	12不413112
①② 290円(1) ①②③ 670円(1) 逃げ						

7/29~8/2 マクル杯~まくってちょ~うだい~

1	②	島川 光男 (59)	広島	2	15	11215521
2	③	井上 大輔 (38)	岡山	5	17	2232311
3	⑥	山室 展弘 (63)	岡山	4	20	2154612
4	④	鯉部太空海 (22)	愛知	19	31	3131332
5	⑤	竹田 辰也 (40)	山口	3	17	15362112
6	①	中村 晃朋 (32)	香川	1	22	13213631
②③ 5870円(19) ②③⑥ 39590円(80) まくり						

8/9~14 日本財団会長杯争奪第52回オール兵庫王座決定戦

1	①	吉田 俊彦 (46)	兵庫	1	21	22311311
2	③	和田 兼輔 (37)	兵庫	3	13	21422161
3	⑤	吉川 元浩 (51)	兵庫	5	13	13213332
4	⑥	数原 魁 (27)	兵庫	6	14	転121342
5	④	藤岡 俊介 (41)	兵庫	4	14	12312232
6	②	和田 拓也 (34)	兵庫	2	16	26311111
①③ 430円(2) ①③⑤ 1150円(2) 逃げ						

8/17~21 第34回しらなみ賞競走~まくってちょ~うだい~

1	④	野中 一平 (29)	愛知	4	10	22212322
2	⑥	吉村 正明 (44)	山口	6	12	15132652
3	②	尾上 雅也 (29)	埼玉	2	25	24211121
4	①	柳生 泰二 (39)	山口	1	25	21113151
5	③	秋山 直之 (45)	群馬	3	18	2121331
6	⑤	百武 翔 (31)	佐賀	5	13	4322112
④⑥ 7130円(19) ④⑥② 32430円(62) まくり						

グラチャン途中帰郷の憂さ晴らし 定松勇樹が貫録V!



尼崎

【ルーキースシリーズ第10戦】7人が帰郷して2人が追加。波乱のシリーズも、終わってみればSG覇者の定松勇樹が貫録を示した。2日目後半にペラ交換。気配は急下降も見事に立て直すあたりはさすが。6月のSGグラチャン途中帰郷の憂さを晴らしVをつかみ取った。

【マクル杯】まくってちょ~うだいの第2弾。中村晃朋は予選最終日に着順を崩し、首位から3位に陥落。ところが、準優で予選1、2位の石塚久也、松崎祐太郎が敗退。幸運にも準優を制した中村に優勝戦の1枠が転がり込んだが、生かすことができず島川光男が2コースまくりでV。企画初のみくり決着となった。

【オール兵庫王座決定戦】2日目5Rで山下智己が、通算2勝目、尼崎では初勝利を挙げたが3連単は120番人気の63万7530円。尼崎では最高配当をたたき出した。シリーズをけん引したのは好エンジンを手にした魚谷智之、吉田俊彦。ところが明暗が分かれて、予選トップだった魚谷は準優で敗退。2位の吉田が勝ち上がり優勝戦の1枠をゲットした。和田兼輔、拓也の兄弟がそろって優出。吉川元浩、藤岡俊介の師弟コンビ。さらに伸びを仕上げた数原魁が優出切符をつかんだ。吉田は土屋智則がSGを制した以降も活躍を続ける4号機のパワーを生かして、イン逃げ成功。オール兵庫初戴冠を成し遂げた。

【しらなみ賞競走】今夏ラストのみくりは7本。盛り上げたのは節間2度のまくり賞を獲得した柳生泰二。勢いそのまま予選トップ通過。準優を逃げて、優勝戦も1枠をつかんだが、4枠の野中一平がカドまくりで内の艇を粉砕。波乱の結末となった。野中は今年2度目、尼崎では初Vを飾った。

(日刊スポーツ・北條)

鳴門



地元戦を総ナメ! 島村隆幸が今年6度目V!

鳴門渦潮歌手高瀬豊子杯競走は6日間シリーズで行われた。5日目にはタイトル戦名にもなっている、当地の人気歌手・高瀬豊子の場内ホールで歌謡ショーがあり、大いにファンを沸かせた。シリーズも熱戦が続き、高配当も出たが、2節連続優勝中の岩瀬裕亮が勢いそのままに戦線をリードした。予選トップ通過から、準優をしっかりと逃げ切ると、優勝戦はコース争いもあつたが、インを守って3節連続Vで締めくくった。

4日間シリーズの松茂町ほか2町競艇事業組合開設56周年記念競走。初日は連勝者がいない混戦模様スタートとなった。メイン12Rのドリム戦も一筋縄では収まらず、3コースから枝尾賢がまくり差して突き抜け、絶好枠の深川真二は2着惜敗となった。そのまま枝尾が予選をリードして、得点率首位通過を決める。深川も成績をまとめて2位。2日目連勝の永井源

が続いて3位。準優は永井、枝尾は勝ったが、深川は2着で優出となり、優勝戦は動く深川がセンター枠でコース争いから目が離せなくなった。やはり進入はすんなりといかず、深川が動いて2コースへ入る。絶好枠の枝尾は深めの起こしとなったが、スリットの迫力が違った。艇団リードするただ一人の0台スタートを決めると他艇に出番はない。あつさり先マイを決めて独走で優勝を飾った。

につぼん未来プロジェクト競走in鳴門は男女混合6日間開催で行われた。予選トップの山田祐也が準優2着で、優勝戦は地元筆頭格の島村隆幸が主役に踊り出た。雪辱を期す山田に、紅一点で節一パワーの前原哉と、好メンバーの戦いでも島村の安定感は光った。スタートを踏み込みビシッと押し切って、正月、GWシリーズに続く、今年走った地元戦をすべてV締め。

(報知・田代)

7/23~28 鳴門渦潮歌手高瀬豊子杯競走

1	①	岩瀬 裕亮 (36)	愛知	1	05	121223111
2	④	入海 馨 (28)	岡山	6	13	241152322
3	②	柳沢 一 (43)	愛知	2	09	234112131
4	③	仲口 博崇 (51)	愛知	3	14	421141211
5	⑥	興津 藍 (43)	徳島	5	16	145233312
6	⑤	村岡 賢人 (34)	岡山	4	08	152361242
①④ 520円(3) ①④② 1070円(3) 逃げ						

8/3~6 松茂町ほか2町競艇事業組合開設56周年記念競走

1	①	枝尾 賢 (42)	福岡	1	03	213121
2	⑤	伊藤 喜智 (38)	大阪	5	17	261262
3	③	佐藤 博亮 (36)	愛知	4	13	231331
4	④	深川 真二 (50)	佐賀	2	16	122212
5	⑥	平石 和男 (58)	埼玉	6	19	423312
6	②	永井 源 (44)	愛知	3	19	161161
①⑤ 3270円(11) ①⑤③ 9100円(35) 逃げ						

8/10~15 につぼん未来プロジェクト競走in鳴門

1	①	島村 隆幸 (33)	徳島	1	08	211421461
2	②	市橋 卓士 (44)	徳島	2	07	253342131
3	③	中島 秀治 (28)	滋賀	3	07	311623511
4	⑤	上條 嘉嗣 (34)	大阪	5	27	242314222
5	④	山田 祐也 (35)	徳島	4	16	121111622
6	⑥	前原 哉 (29)	岡山	6	25	15122512
①② 480円(3) ①②③ 1130円(2) 逃げ						

まるがめ



道中の大逆転劇！ 森下愛梨が待望のデビュー初V

8月1日からのヴェイナスシリーズ第10戦「蒼月まるるカップ」は、福岡で開催されたレディースチャンピオンと日程が重なっている関係で、A1級レーサー不在の混戦シリーズとなった。ちなみにタイトル名の「蒼月まるる」とは、まるがめの水面を守護するために、月の都からやって来たボートレースまるがめの公式イメージキャラクター。初日12Rのドリーム戦は前田紗希がインから押し切って快勝。予選組では森下愛梨がまくりと逃げて連勝発進を決めた。予選トップ通過を決めたのは中川りなだったが、準優11Rで佐々木裕美の2コースまくりを浴びて5着。2位通過だった森下が準優10Rを勝ち上がった。優勝戦1枠をゲットした。ファインナルは逃げた森下、差した佐々木で激しいデッドヒート。1周1マークでは佐々木の差しが一度入ったが、森下が2マーク全速、そして2周1マーク

も握って回って佐々木を逆転。2017年5月のデビュー以来7年3か月、3度目の優出で待望の初優勝を決めた。8月9日からの「トランスワードロフイー2024」は4日間の短期決戦。直前の浜名湖で史上5人目の3000勝を達成したばかりの西島義則が優勝戦1枠で乗ってきた。しかし、イン先マイはわずかに流れて3コースから攻めた今泉友吾のまくり差しが的中。今年5回目、ブルーナイターでは初めての優勝を決めた。

8月16日からの「RNC杯争奪サマーチャンピオンレース」はオール香川支部での争い。初日ドリームは片岡雅裕、2日目ドリームは森高一真とともに1枠両者が勝ち切ったが、シリーズをリードしたのは片岡だ。予選トップから準優1着で優勝戦1枠、最後まで危なげなく逃げ王道Vを完成させた。(A)

8/1~6 ヴィナスシリーズ第10戦 蒼月まるるカップ

1 ① 森下 愛梨 (27) 静岡	① 16 11231231
2 ② 佐々木裕美 (44) 山口	② 18 424112611
3 ⑤ 若狹奈美子 (36) 岡山	⑤ 12 32322122
4 ⑥ 中澤 宏奈 (36) 東京	⑥ 07 211132632
5 ③ 富樫 麗加 (34) 東京	③ 13 411323321
6 ④ 勝浦 真帆 (28) 岡山	④ 12 421211312
①② 590円(3) ①②⑤ 3410円(9) 抜き	

8/9~12 トランスワードロフイー2024

1 ③ 今泉 友吾 (34) 東京	③ 19 441211
2 ① 西島 義則 (62) 広島	① 24 221151
3 ④ 西岡 顕心 (23) 香川	④ 15 212542
4 ⑤ 平尾 崇典 (51) 岡山	⑤ 16 314132
5 ⑥ 松田大志郎 (36) 福岡	⑥ 19 134412
6 ② 眞鳥 章太 (28) 長崎	② 25 131661
③① 980円(5) ③①④ 3000円(12) まくり差し	

丸亀 8/16~21 RNC杯争奪 サマーチャンピオンレース

1 ① 片岡 雅裕 (38) 香川	① 07 112114221
2 ④ 竹田 和哉 (30) 香川	④ 14 423421132
3 ② 木谷 賢太 (28) 香川	② 10 121122531
4 ⑤ 嶋 義信 (35) 香川	⑤ 19 152231612
5 ③ 秋山 広一 (49) 香川	③ 10 121143261
6 ⑥ 平高 奈菜 (37) 香川	⑥ 19 343231322
①④ 420円(3) ①④② 1130円(5) 逃げ	

7/21~26 山陽新聞社杯

1 ① 高倉 孝太 (37) 福井	① 03 113213321
2 ③ 田中 辰彦 (38) 広島	④ 10 513351421
3 ④ 今村 暢孝 (59) 福岡	② 07 331123122
4 ② 濱野 斗馬 (24) 香川	③ 11 131614311
5 ⑥ 妹尾 忠幸 (43) 岡山	⑥ 15 362141432
6 ⑤ 山田 佑樹 (37) 岡山	⑤ 09 124122222
①③ 1110円(5) ①③④ 3020円(10) 逃げ	

7/30~8/4 ルーキースeries第11戦スカー！JLC杯

1 ① 末永 和也 (25) 佐賀	① 10 211221131
2 ⑤ 松本 純平 (29) 埼玉	④ 18 521514132
3 ⑥ 眞鳥 章太 (28) 長崎	⑥ 19 451412342
4 ② 藤原 碧生 (24) 岡山	② 10 141131121
5 ④ 佐藤 航 (24) 埼玉	③ 14 123114512
6 ③ 安河内 健 (28) 佐賀	⑤ 12 132142231
①⑤ 910円(4) ①⑤⑥ 7040円(20) 逃げ	

8/8~13 BTS松江開設24周年記念競走

1 ① 渡辺 浩司 (40) 福岡	① 06 412221211
2 ② 中野 希一 (25) 埼玉	② 11 143122131
3 ④ 山本 兼士 (47) 大阪	⑤ 20 531233422
4 ③ 別府 昌樹 (48) 広島	③ 10 323212431
5 ⑤ 三苫 晃幸 (38) 福岡	⑥ 10 524153312
6 ⑥ 蒲原 健太 (30) 佐賀	④ 09 443233342
①② 280円(1) ①②④ 1170円(4) 抜き	

8/17~22 第42回天領杯

1 ① 茅原 悠紀 (37) 岡山	① 05 111331121
2 ③ 山本 寛久 (48) 岡山	③ 07 411231341
3 ④ 白神 優 (33) 岡山	④ 10 213415212
4 ⑥ 岡瀬 正人 (49) 岡山	⑥ 16 431241552
5 ⑤ 入海 馨 (28) 岡山	⑤ 11 332513332
6 ② 平尾 崇典 (51) 岡山	② 12 123113141
①③ 420円(2) ①③④ 1320円(7) 逃げ	

機力劣勢を跳ねのけた！ 末永和也がイン王道V



児島

7月3節目の「山陽新聞社杯」は服部幸男が主役だが、予選が終わって今村暢孝がトップ通過を果たし、高倉孝太、山田佑樹が上位通過。イン逃げで勝った高倉が優勝戦の1号艇を手にして「足はバランス取れているが、特に出足がしっかりしている」と良機のパワーを引き出して10戦5勝オール3連対の成績で優勝を飾った。

7月から8月に開催された「ルーキー瀬戸の若鷺決定戦」はGIホルダーの末永和也が抜けた存在だった。選抜戦を白星で飾り、2日目以降もオール連対を途切れることなく、力強い走りを見せた。地元の藤原碧生、安河内健が安定した走りでのポイント積み重ねるも、末永が首位を独走。準優も危なげなく逃げ切った末永は「足は普通より少し良いくらいかな。特段に出ていることはない」と低勝率機だが、王道Vを決めた。

8月最後の「第42回天領杯」は7月の大村オーシャンカップでSG2冠となった茅原悠紀が主役。ドリーム戦を制したが、3日目の3着で平尾崇典に得点首位を奪われた。予選最終日の連勝で再度、得点率トップに立った。茅原、平尾、山本寛久が上位通過。準優で茅原は白神優に差し込まれるシーンがあったが、2Mは渾身のハンドルで逆転。優勝戦も堂々と押し切り今年3回目、通算57回目のVで大い

大原祥昌が 地元水面で嬉しい初V!



宮島

7/25~30 第14回みやじマリンカップ

1	①	菅 章哉 (36)	徳島	①	04	146111151
2	③	永田 啓二 (39)	福岡	③	05	162611231
3	⑤	平田 忠則 (47)	福岡	⑤	05	133251212
4	②	有賀 達也 (38)	埼玉	②	02	233121341
5	④	角谷 健吾 (51)	東京	④	09	131263132
6	⑥	上田 龍星 (29)	大阪	⑥	05	154342132
①③ 420円(1) ①③⑤ 2130円(4) 逃げ						

8/3~8 第3回エフ・ディミニッシュバトルシリーズ

1	①	大原 祥昌 (25)	広島	①	09	15111131
2	⑥	後藤 翔之 (38)	東京	⑥	14	21242522
3	⑤	岩瀬 裕亮 (36)	愛知	⑤	13	263121422
4	④	田中信一郎 (51)	大阪	④	12	121133112
転	③	中村 魁生 (26)	大阪	③	07	253341221
妨	②	田頭 虎親 (26)	香川	②	04	411261111
①⑥ 4760円(16) ①⑥⑤ 23070円(71) 逃げ						

8/15~20 第54回スポーツニッポン杯

1	①	船岡洋一郎 (37)	広島	①	05	145111131
2	③	下寺 秀和 (31)	広島	③	11	332121432
3	②	西島 義則 (62)	広島	②	04	122244121
4	⑤	上平 真二 (50)	広島	④	11	135322222
5	④	浜先 真範 (31)	広島	⑤	09	322141312
6	⑥	大上 卓人 (33)	広島	⑥	14	261621513
①③ 520円(2) ①③② 1890円(6) 逃げ						

夏本番を迎えた8月初戦の「エフ・ディミニッシュバトルシリーズ」は地元で奮起した大原祥昌の初優勝で幕を閉じた。シリーズの序盤は大本命の田中信一郎がV戦線を力強く引っ張る流れ。機力的にも申し分ない状態で、予選を7戦4勝のオーラ3連対でトップ通過を果たす。これに負けじと猛追していたのが大原。こちらは予選の6走で4勝し3着と5着を1本ずつと勝ち切る内容でポイントを加算。結果、予選を2位でクリアし準優勝を射止めていた。迎えた準優勝戦。準優10Rでは好枠インの東本勝利がハイパワースを誇る田頭虎親の2コースまくりにして3着惜敗。11Rは大原が押し切り優出を確定させると、続く12Rでは予選トップ通過の田中が好枠インから2着惜敗の大波乱。この結果、大原に優勝戦ポールポジションが転がり込んできた。

千載一遇の初Vチャンスが巡る(「B」宮島専属記者・宮崎経督) つてきた大原。インからコンマ09のSを踏み込むが、同じく初Vがかかる田頭も2枠2コースからコンマ04のトップSで準優勝に強気なまくり攻勢を仕掛ける。これに対しインの大原はS後に伸び返して先マイ態勢へ。田頭は1Mで振り込み転覆。これに中村魁生が乗り上げて転覆。これにより田頭は妨害失格となった。先マイで先行した大原はそのまま周回を重ねてVゴール。自身3度目の優出でこれが嬉しい初優勝。前期は事故点が多く本来の走りからは程遠いレース内容が続いていたが、直近3節の地元戦では本来の力強い走りを見せていた。今大会は伸び型仕様のエンジンをしっかりと自分向きのターン回り仕様へと調整をやり直し、最高の結果に結び付けたことは大きな自信となったはず。今後とも自慢の旋回力でファンを喜ばせてくれそう。

徳山



意外や意外! ? 寺田祥が約3年ぶりの当地V

7月23日から28日まで行われた「GⅢサッポロビールカップ」。田頭実、徳増秀樹のベテランSGウイナーを筆頭に、前田将太、佐々木完太、上條嘉嗣ら豪華な顔ぶれ。そんな激戦シリーズを制したのは豊田健士郎だった。序盤は平凡な仕上がりが多かったが、予選終盤には上位級の気配となり予選は5位通過。準優では逆転勝利を収め、優勝戦は2コース差しを決めて快勝。これが今年7度目のV。SGクラシック出場に当確ランブが灯った。また、副賞の缶ビール5ケースが贈られると「お酒は何でもいけます。ビールももちろん大好きです」と今節で一番の笑みを見せたのが印象的だった。

8月4日から9日までは地元シリーズの「黒神杯争奪戦」が行われた。SGボートレースメモリアルに徳山推薦で出場する寺田祥、柳生泰二をはじめ、原田篤志、谷村一哉らおなじみの地

元勢が参戦。優勝戦は寺田、柳生、長尾章平の地元勢3人対小池哲也、中井俊祐、三宅潤の大阪勢3人の対決となったが、1枠を手にした寺田が逃げ切った。優勝。徳山では21年10月以来、約3年ぶりのV。9月末に控える当地周年記念へ期待が持てる結果となった。

8月13日から18日は「スポーツニッポン杯争奪ウィーナスシリーズ第11戦」。A1級不在の大混戦シリーズを制したのは地元佐々木裕美だった。終わってみれば11戦7勝の固め打ちで圧勝。地元徳山では約5年ぶり、通算11度目のV。今回で4場所連続優出と近況好調だったが、直前の丸亀であと一步のところVを逃しただけに「今回はどうしても優勝したいと思っています」と前検から公言。その言葉通り予選1位で準優、優勝戦も圧倒し、有言実行の活躍で地元の意地を見せた。(目刊・湖上)

7/23~28 サッポロビールカップ

1	②	豊田健士郎 (28)	三重	②	12	323514111
2	④	上條 嘉嗣 (34)	大阪	④	16	131442142
3	③	杉山 裕也 (38)	愛知	③	13	364112311
4	①	佐藤 博亮 (36)	愛知	①	02	132213131
5	⑥	福田 雅一 (55)	香川	⑥	17	521333412
6	⑤	山一 鉄也 (57)	福岡	⑤	15	224411312
②④ 5510円(11) ②④③ 21890円(34) 差し						

8/4~9 黒神杯争奪戦

1	①	寺田 祥 (45)	山口	①	26	212261131
2	②	柳生 泰二 (39)	山口	②	24	234131231
3	③	小池 哲也 (35)	大阪	③	26	455111311
4	④	中井 俊祐 (43)	大阪	④	23	25311452
5	⑤	長尾 章平 (39)	山口	⑤	26	333222512
6	⑥	三宅 潤 (39)	大阪	⑥	26	114362352
①② 230円(1) ①②③ 500円(1) 逃げ						

8/13~18 スポーツニッポン杯争奪ウィーナスシリーズ第11戦

1	①	佐々木裕美 (44)	山口	①	11	113115131
2	④	角 ひとみ (55)	広島	④	08	133141322
3	②	前田 紗希 (31)	埼玉	②	06	323111531
4	⑥	中澤 宏奈 (36)	東京	⑥	15	222625122
5	⑤	山崎小葉音 (23)	群馬	⑤	08	314133222
6	③	渡邊真奈美 (33)	東京	③	05	223416221
①④ 730円(3) ①④② 1850円(7) 逃げ						

下関



乗りに乗る井上忠政 住之江、福岡に続く3連続V

7/27~8/2 オラレ下関オープン10周年記念 山口新聞社杯

1	④	大峯 豊 (40)	山口	⑤	08	11212333612
2	①	近江 翔吾 (31)	香川	①	05	32221231141
3	⑤	酒見 峻介 (39)	佐賀	⑥	11	5122413322
4	⑥	大神 康司 (52)	福岡	③	07	5115331452
5	③	小野 達哉 (38)	大阪	④	05	15411323111
6	②	吉川 喜継 (42)	滋賀	②	03	21421131111
④① 2290円(9) ④①⑤ 12400円(42) 抜き						

8/5~9 Hayashikane杯

1	①	井上 忠政 (28)	大阪	①	07	13111431
2	②	渡邊 和将 (34)	岡山	②	10	14411141
3	③	白神 優 (33)	岡山	③	13	2113211
4	⑥	清水 愛海 (24)	山口	⑥	18	1233432
5	④	高田ひかる (30)	三重	④	19	1222162
6	⑤	赤坂 俊輔 (41)	長崎	⑤	20	11163642
①② 250円(1) ①②③ 570円(1) 逃げ						

8/13~17 ミッドナイトボートレース下関6th

1	②	海野康志郎 (36)	山口	③	14	33311231
2	①	佐々木完太 (28)	山口	①	17	25311461
3	④	大峯 豊 (40)	山口	④	14	34161152
4	⑤	島川 海輝 (21)	山口	⑤	15	1341312
5	⑥	井本 昌也 (27)	山口	⑥	20	26511122
6	③	妹尾 忠幸 (43)	岡山	②	18	3121421
②① 800円(4) ②①④ 2630円(9) まくり差し						

7月27日開幕の「オラレ下関オープン10周年記念 山口新聞社杯」7日間節は地元大峯豊が6戦3勝オール3連対で予選トップ通過。ただ、準優進出戦では6着に敗れる波乱が起きた。規定により、準優には乗れたものの5枠での出走。優出の可能性は低くなってしまったが、それでも諦めない。準優では4コースの里岡右貴が握って攻める展開となり、1Mしっかり差した大峯が2着に入って優出権を獲得。「メモリアルとダービーに集中しようと思ったけど、もうひと仕事しなければ」と逆境をはねのけての優出に笑顔。その言葉通り、優勝戦では4コースの小野達哉がまくって攻めると内枠勢がこれに抵抗、大峯が5コースから空きの1Mにまくり差しハンドルを入れるると、2Mでは酒見峻介を手堅くさばき今年初Vを挙げた。

8月5日開幕の「Hayashikane杯」は大混戦シリズだったが、そんな中で輝きを放ったのが井上忠政だ。予選は初日ドリーム戦3着以外はすべて1着を並べてトップ通過。準優、優勝戦ともに圧巻の逃げ切りで、住之江GⅢ企業杯、福岡一般戦に続く3連続優勝を達成した。9月桐生のヤングダービー、そしてSG初出走となる10月の戸田ダービーにつながる価値のあるVだった。

8月13日開幕の「ミッドナイトボートレース下関6th」では

白井英治がオール2連対で予選をトップ通過。このままVまで突っ走るかと思われたが、準優はまさかの3着敗退で優出ならず。V戦1枠は佐々木完太の手に渡ったが、低調機を立て直した海野康志郎が襲い掛かった。2枠のピット離れて遅れてしまいい、回り込んでの3コーススロ1となったが、ここで十八番の3コースまくり差しを入れて通算39度目の優勝を果たした。

(西日本スポーツ岡部)

7/20~26 SkyFight福岡日総希カップ

1	①	安河内 将 (34)	佐賀	①	12	14311351131
2	③	尾上 雅也 (29)	埼玉	③	15	15312221351
3	⑥	石田 政吾 (53)	福岡	⑥	18	33163214212
4	②	尾嶋 一広 (37)	兵庫	②	13	11314234161
5	⑤	岡部 大輝 (28)	東京	⑤	16	4233212232
6	④	江夏 満 (43)	福岡	④	15	45121216132
①③ 310円(2) ①③⑥ 4410円(13) 逃げ						

7/30~8/4 ミッドナイトレースマンスリーBOATRACE杯

1	④	古賀 繁輝 (38)	佐賀	④	09	221315312
2	⑤	植田 太一 (35)	福岡	⑤	16	12623262
3	⑥	木村 仁紀 (31)	滋賀	⑥	20	21352312
4	①	今村 暢孝 (59)	福岡	①	12	142121121
5	②	丹下 将 (38)	愛知	②	26	33112251
6	③	中 亮太 (27)	福岡	③	08	311424161
④⑤ 4270円(15) ④⑤⑥ 15550円(50) まくり差し						

8/6~12 にっぽん未来プロジェクト競走in若松

1	①	中田 元泰 (38)	香川	①	13	112211423121
2	③	三好 勇人 (40)	香川	③	13	24224213141
3	⑥	川口 貴久 (44)	東京	⑥	17	4325332222
4	④	山口 達也 (37)	岡山	④	13	632411233232
5	⑤	松田 竜馬 (40)	福岡	⑤	17	35314311312
6	②	井上 大輔 (38)	岡山	②	13	26141146141
①③ 330円(1) ①③⑥ 3020円(12) 逃げ						

8/15~20 日刊スポーツ杯お盆特選競走

1	①	西山 貴浩 (37)	福岡	①	14	11211111111
2	②	岡村 慶太 (36)	福岡	②	12	143122121
3	⑤	今井 貴士 (40)	福岡	④	13	122525162
4	③	池永 太 (39)	福岡	③	15	2331523241
5	⑥	木下 大將 (39)	福岡	⑥	22	324323222
6	④	田中 宏樹 (36)	福岡	⑤	22	211236142
①② 280円(1) ①②⑤ 1180円(2) 逃げ						

当地周年に弾み！ 西山貴浩が準完全V!



若松

「7月20日〜26日」上昇機を手にして「ここ数年ないくらいの手応え」と話していた新田泰章がまさかのF脱落。代わって主役に名乗りを挙げたのは安河内将。出足を中心に節イチ級に仕上げた予選トップからの王道優勝。この日は弟の安河内健も平和島で優勝を飾っており、兄弟で同一日優勝となった。

「7月30日〜8月4日」エンジン出しに手こずった西橋奈未の苦戦は意外だったが、女子は渡辺真奈美と来田衣織が圧巻のパワーでシリーズを盛り上げた。予選トップ通過は地元ベテランの今村暢孝で得意の2コース差しがさえ渡った。丹下将も上位機のパワーを引き出しての活躍。しかし、優勝を飾ったのは古賀繁輝。上昇機で日替わりの仕上がりがだったが準優、優勝戦と納得の足に仕上げ、最後は4コースからのまくり差し。

「8月6日〜12日」最近の若松は新ペラに交換されて本来なら不利な選手が活躍する傾向があるが、今シリーズの中田元泰も前検から新ペラでエンジンは上位機ではないにも関わらず初日から抜群の手応えを得て予選トップからの王道で当地連覇を達成。同じく前検から新ペラだった山口達也も上位足ではなかったが優出は果たした。2連対率ワースト機の三好勇人が準優勝。前回の岡部貴司がセット交換して大幅に上昇していた。

「8月15日〜20日」2連対率だけが高いが近況さっぱりだったエンジンの西山貴浩はセット交換とペラ調整が抜群にマッチしたのか、当地では見たこともないくらいの出足に仕上げた11戦10勝のオール2連対で準パーフェクト優勝。9月の周年記念に弾みを付けた。また、この節からチルト3度が解禁となり、田中宏樹と柴田大輔がさっそく使用して驚異的な伸びを披露したのも特筆ものだった。

(スポーツ報知・井上誠之)



芦屋

負傷で3か月離脱も… 西野雄貴が復活V果たす！



西野雄貴

7/25~28 BTS高城開設26周年記念

1	①	西野 雄貴 (34)	徳島	①	05	21221
2	③	上野真之介 (36)	佐賀	③	02	323111
3	②	岡村 慶太 (36)	福岡	②	07	114231
4	④	鈴木 勝博 (41)	愛知	④	01	114312
5	⑤	品田 直樹 (45)	東京	⑤	11	13262
6	⑥	春園 功太 (32)	三重	⑥	12	361322
①③ 260円(1) ①③② 540円(1) 逃げ						

8/10~15 九州スポーツ杯争奪オール九州選抜戦

1	①	古澤 光紀 (36)	福岡	①	04	114131141
2	②	篠崎 元志 (38)	福岡	②	13	111212531
3	③	山一 鉄也 (57)	福岡	③	15	224151321
4	④	新開 航 (28)	福岡	④	13	262111232
5	⑤	川上 剛 (43)	福岡	⑤	16	441213212
6	⑥	中村 真 (51)	福岡	⑥	18	251442422
①② 250円(1) ①②③ 780円(2) 逃げ						

7月28日が最終日だった4日間の短期決戦「BTS高城開設26周年記念」は西野雄貴の完勝だった。好素性13号機を引き当てた上に、前検から「最近使っている伸び型の形にペラを叩き変えた」ことが奏功して、前検一番時計をマーク。予選トップ通過を果たすと、伸び型から出足も意識したバランス型に調整を整え、準優を圧勝。優勝戦はコンマ01の踏み込みもあり猛烈なS合戦だったが、西野自身もコンマ05のSを決めて逃げ切った。

1月に「痛み止めを飲んでも全く動けないぐらいに膝が痛くなってしまった」という負傷により約3か月の欠場を余儀なくされた。「病院では1年ぐらい休んだ方がいいと言われましたが、走れるなら走りたいたい」と思って4月に蒲郡で実戦に復帰。復帰2節目の丸亀で優出すると、6月大村から鳴門そして今節で3節連続優出を果たし、復帰後初Vまでこぎ着けた。負傷の影響もレース勘の不安も微塵も感じさせない強さだった。オール福岡支部で争われたお盆シリーズ「九州スポーツ杯争奪オール九州選抜戦」は、連日連勝者がいて白熱のシリーズリーダー争いが繰り広げられた。初日は篠崎元志、2日目は枝尾賢とそれぞれドリム1号艇を任された2人。3日目は直前の72周年で椎名豊が噴き上げた23号機を手にした新開航。そして予選最終日の4日目には連日白星を挙げてきた古澤光紀が連勝り続けてきた篠崎を逆転。好素性9号機のパワーを「トータルで見ればトップだと思う」というまでに引き出してみせた。準優では「Sが少し届いていなかった」と首をかしげたが、優勝戦はその反省を生かして唯一0台のトップS。他艇に何もせず圧倒して今年6度目の優出で4Vを決めた。

(スポーツ報知・井上)

福岡



渾身の差しハンドル！ 篠崎仁志が18回目の当地制覇



篠崎仁志

7/24~29 西部ボートレース記者クラブ杯

1	①	井上 忠政 (28)	大阪	①	08	123221121
2	③	北野 輝季 (35)	愛知	③	11	163124141
3	⑥	柴田 直哉 (34)	福岡	⑥	19	24214152
4	④	下條雄太郎 (38)	長崎	④	13	132111422
5	②	原田才一郎 (27)	福岡	②	09	351121351
6	⑤	佐々木翔斗 (28)	大阪	⑤	16	321312312
①③ 330円(1) ①③⑥ 8250円(24) 逃げ						

8/17~22 お盆特選レース

1	②	篠崎 仁志 (36)	福岡	②	07	311312521
2	①	前田 将太 (36)	福岡	①	08	221131131
3	③	永田 啓二 (39)	福岡	③	05	165312351
4	⑤	松村 敏 (40)	福岡	⑤	09	244116142
工	⑥	渡辺 浩司 (40)	福岡	⑥	11	254121442
坊	④	日高 逸子 (62)	福岡	④	08	312341322
②① 940円(5) ②①③ 2480円(10) 差し						

博多は絶対に譲れない。意地のぶつかり合いとなった8月17日に開幕した3大特選レースのひとつ「お盆特選レース」は現役最強の博多巧者・篠崎仁志が強さを見せた。

予選トップ通過から王道を歩んだ前田将太は、数字のないエンジンで丁寧な仕上げて予選道中は4勝を挙げてオール3連対の活躍。上位とのパワー差は感じながらも「素性を考えると引き出せている。優勝戦1号艇の責任を果たしたい」と昨年大会で同じ優勝戦1枠で5着に敗れた雪辱に燃えた。

前田にとってアンラッキーだったのは優勝戦直前に追い風が強まったこと。1周1Mは永田啓二の3コースツケマイに反発するため、旋回半径の大きなラインになった。その一瞬の隙を篠崎が逃さず、好ハンドルを入れてバックで先頭へ。そのままリードを守り切り、通算18回目の当地制覇を果たした。

現在勝率が5点台まで落ち込んでいる当地入りだったこともあり「最近是不調だったのでこちらからまた気持ちを入れて走ろうと思っていた」と心情を吐露。「次節のSGメモリアルは福岡ボートの推薦で出場できるので、責任を持って優勝を目指したい」とファンの前で活躍を誓った。この優勝をきっかけに再浮上を図れるか注目したい。

7月24日開幕の「西部ボートレース記者クラブ杯」は前走地住之江Vの勢いそのままに井上忠政がシリーズをけん引。準優、優勝戦と圧倒的なパフォーマンスで福岡初制覇を飾った。「1Mで横を見る余裕があるくらいエンジンが仕上がっていた。ダービー勝率も懸かっていたので、絶対に優勝するんだと気持ちを入れてきたので、ホッとしました」と安堵の表情。今節の活躍が功を奏し、出場順位52位でSG初出場が決まっている。

(スポニチ・鳥飼)

からつ



ほぼ女子相手に意地見せた 藤岡俊介が今年2回目V



7/29~8/3 ほぼ女子戦~サマーモーニングバトル~

1	①	藤岡 俊介 (41)	兵庫	①	08	12211141
2	②	澤田 尚也 (25)	滋賀	②	10	11221111
3	④	浦原 健太 (30)	佐賀	④	17	13122512
4	③	浜田亜理沙 (36)	埼玉	③	11	111112631
5	⑤	寺田 千恵 (55)	岡山	⑤	13	133533252
6	⑥	香川 颯太 (24)	滋賀	⑥	16	11646112
①② 250円(1) ①②④ 1160円(3) 逃げ						

8/10~15 お盆特選~がばい王者決定戦~

1	①	峰 竜太 (39)	佐賀	①	15	131121161
2	③	宮地 元輝 (37)	佐賀	③	15	114334111
3	④	末永 和也 (25)	佐賀	④	17	413212332
4	②	古賀 繁輝 (38)	佐賀	②	31	141113111
5	⑤	高倉 和士 (33)	福岡	⑤	22	233311652
6	⑥	松江 秀徳 (46)	佐賀	⑥	27	32425422
①③ 300円(2) ①③④ 660円(1) 逃げ						

「ほぼ女子戦」は、浜田亜理沙、寺田千恵、細川裕子、魚谷香織、藤岡俊介、澤田尚也、宮田龍馬らがV候補。産休明けの藤岡小百合は、2022年8月7日のPGI丸亀レディースチャンピオン優勝戦以来、約2年ぶりの実戦。予選は女子5人を男子が相手にするレーススタイル。飛び出したのは、地元戸田開催のSGボートレースダービーに初出場を決めた浜田で、出足の良さを武器に開幕5連勝の活躍。予選ラストの6着が響いてトップ通過は逃したが、藤岡、澤田に続く3位で準優は1号艇。

「お盆特選」がばい王者決定戦は峰竜太、宮地元輝、定松勇樹、山田康二ら地元の実力者が集結。金看板の峰は低調機で、前検査配は「ポロエンジン」行き足、ターン足が悪い。迎えた実戦、1号艇で人気を背負っていたドリムは宮地の2コース差しに屈して3着。やはり動き劣勢かと思われたが、レース後のコメントは「整備をして良くなっている。優勝できる」。整備がはまり、特にターン足は格段良化。予選は2位ではあったが、トップの山田康二は準優4着。優勝戦の1号艇を手にした峰は「3号艇(宮地)が怖いけど、自分がミスらなければ逃げられる」。優勝戦は2コースの古賀繁輝がスタートを遅れてしまい、壁がないイン戦ではあったが宮地のまくりを受け止めて逃げ圧勝。お盆特選は2年ぶり5回目、通算優勝を103回に加算した。(報知・高木)

予選トップ通過の山口真喜子 優勝ならずも今後に期待!



山口真喜子



石橋道友

茅原悠紀が優勝した13号機はF休み明けの田川大貴、山口剛が出足強力だった18号機は高木圭大、椎名豊がチルト05で伸びていた73号機は岡暢祐と若手が引き当てたが、田川は3走目で痛恨のF。初日12R組の主力陣はオーシャンカップで活躍したエンジンを引き当てられなかったどころか低調機ばかり。下條雄太郎は森高一真がゴンドクを並べた12号機、吉田一郎は湯川

浩司が大苦戦した49号機、石橋道友は2連対率19%の45号機。そして、山口裕二、桑原悠、村上遼はオーシャンカップ不出場エンジンだった。シリーズを通して沸かせたのが山口真喜子だ。オーシャンカップでは石野貴之が後半仕上げた60号機は、女子力も手伝って第一の仕上げ。予選は6戦5勝として堂々のトップ通過を果たした。しかし、準優進出戦はインからスタートで遅れて3着。準優は道中の競り合いを制して2着に入ってデビュー3度目の優出を果たしたものの、優勝戦は4号機。その優勝戦では山口真と良機を引いた坪口竜也が圧倒的なパワー2強だった。それでも予選2位ながらも進出戦も準優も逃げた石橋が優勝戦の1号艇。全員が0台のスリット合戦となったが、出足の良さを生かして今年3回目(全て大村)、大村では23回目のV。(報知・長谷)

8/5~11 日本財団会長杯

1	①	石橋 道友 (42)	長崎	①	06	1242112141
2	③	坪口 竜也 (35)	長崎	③	07	3163221231
3	④	山口真喜子 (27)	長崎	④	07	11411132312
4	⑤	真庭 明志 (40)	長崎	⑤	08	2333142312
5	②	村上 遼 (32)	長崎	②	06	1541513141
6	⑥	下條雄太郎 (38)	長崎	⑥	09	3162151252
①③ 350円(2) ①③④ 1090円(3) 逃げ						